

## 資料2

# 九州自然歩道について

長距離自然歩道とは・・・

長距離自然歩道は、国土を縦断、横断又は循環し、多くの人々が四季を通じて手軽に楽しくかつ安全に国土の優れた風景地等を歩くことにより、沿線の自然環境や自然景観、さらには歴史や文化に触れ、国土や風土を再認識し、併せて自然保護に対する意識を高めることを目的としている。

長距離自然歩道は、昭和45年(1970年)の東海自然歩道に始まり、九州、中国、四国、首都圏、東北、中部北陸、近畿と8つの自然歩道が整備され、現在整備中である北海道自然歩道を含めると総延長は約2万6千 km となり、年間6,000万人を超える人々に利用されている。

九州自然歩道とは・・・

九州自然歩道は、福岡県の北九州国定公園皿倉山を出発点として南下し、英彦山で東西に分かれ九州各県を一周する。日帰り利用を念頭に九州圏域の利用しやすい興味地点をつなぐ、九州本土全県を巡る地域周回型の路線である。4つの国立公園、4つの国定公園、30の県立自然公園を結び、高原、山岳、海岸、あるいは地方色豊かな文化財等を、四季を通じて探勝することができるようになっており、この中には探勝地、休養地、都市近郊のハイキングコース等が変化に富んだ組合せになっている。

路線延長は約2,900km、昭和50年度に整備が開始され昭和55年度に全線開通した。

路線選定に際しては次のような点が留意されている。

- ・国立公園、国定公園及び県立自然公園等のすぐれた自然景観や文化景観を有する地域を通り、地元県民をはじめとして広く国民各層が通年利用できるものであること。
- ・自然歩道の主旨に則し、路線とするにふさわしい既存道路がある場合は、なるべくこれを利用する。
- ・沿線の土地利用が、将来とも自然歩道の主旨に抵触する恐れのないこと。
- ・路線及び沿線の土地所有、権利制限関係等種々の社会条件が、歩道の整備及び管理上特に支障とならないこと。

熊本県では・・・

九州自然歩道は、熊本県内では主に以下の名所を通っている。

金峰山(熊本市)、田原坂(熊本市)、鞠智城(菊池市)、菊池溪谷(菊池市)、根子岳(阿蘇市、高森町)、通潤橋(山都町)、五家荘(八代市)、人吉城(人吉市)、鹿目滝(人吉市)、天草松島(上天草市)、三角西港(宇城市)

九州自然歩道路線図



